

綾瀬川エリア

バードサンクチュアリ A-1
新栄町団地東側の綾瀬川右岸一帯は、野鳥の聖域です。野鳥の好む約40種類の木を植えた「鳥と友だち広場」が整備されています。
周辺では、カワセミ、コサギ、シラコバト、ハクセキレイなどの野鳥が美しい風景とも観察できます。

くわい田 A-2
草加の特産くわいは明治初期から本格的に栽培が始まり、現在も新田地区で栽培されています。6月下旬に植えつけられ、11月下旬から2月にかけて収穫出荷されます。

綾瀬川浴池 (あやせがわんどろ)
市の北部では西から流れ、その後南下する綾瀬川は、昭和30年代まではホテルが生息するきれいな川でした。近年の再生計画により、水辺は美しく、水が清く、市民の憩いの場となっています。
新田駅からバードサンクチュアリに続く綾瀬川沿いは、桜が咲き、お花見の名所となっています。 A-1~3

旭神社 (あさひじんじや) A-3
水川神社と呼ばれてきました。明治40年(1907)に社号を改めました。本殿は江戸中期のもので、市指定文化財の尊厳があるほか、境内には参道入口の力をはじめる石造物があります。
また、境内にはアサで飾られた燈籠がかけられ、毎年10月に燈つり(蛇ねじりといいますが)が行われます。

ウォーキングコース
コース1周 約7km 約3時間
サブサンクチュアリ
バードサンクチュアリ

ウォーキングアドバイス
疲れたら、無理せず休憩をとりましょう。

ウォーキングコース
コース1周 約5km 約2時間
そりが公園
院
道
社
公
園

ウォーキングアドバイス
帽子を着用し、熱中症に気を付けましょう。

柿木・そうか公園エリア

東武スカイツリーライン 新田駅東口より 東武バス新11乗車 12分「そうか公園下車」
獨協大学前(草加松原)駅東口より ハリホリくんバス乗車 14分「そうか公園下車」

東新院 (とうしんいん) A-5
室町時代(西暦1500年頃)に、定規によって創建されたと伝わる市内最古の寺です。市指定文化財の山門は天明2年(1782)の建立といわれ、山門の左手の薬師堂には高野山の木喰僧・恵昌の作と伝わる薬師如来像が安置されています。

そうか公園 (そうかこうえん) A-5
総面積17.8haの広大な園内には、滝や沢、せせらぎのある四季の森や市民の森、遊歩道、多目的運動広場、テニスコート、野鳥や水鳥の集まる修養池などがあつちます。約300種、2万5000本の木々や樹木、草花等があり、野鳥や昆虫を観察できる自然の宝庫です。公園西側の八条用水沿いにある榎並木は市内の桜の名所の一つとなっています。

女体神社 (にょたいじんじや) A-5
筑波山の女体神社を信仰していた豊田城の城主豊田氏が、落城後榎木を安住の地と定め、筑波山に向けて北向きに建てられたといわれる神社です。また、那土の作・豊田三郎の文学碑もあつちます。

ウォーキングコース
コース1周 約5km 約2時間
そりが公園
院
道
社
公
園

ウォーキングアドバイス
帽子を着用し、熱中症に気を付けましょう。

谷塚エリア

辰井川10橋 (たけいがわじゅうきょう) CD-2
辰井川は昭和56年から6年間をかけて掘削された川です。川にかかる橋には、「わたる」という龍龍のほかに、「女がめる」「ふれあう」「ほころ」という要素を入れ造られ、地域の歴史と周辺の自然と調和する個性的なデザインがほどこされています。
そのうちの6橋は建設省(現在は国土交通省)の「手づくり郷土賞」ふるさとが誇りとする橋部門」を受賞しました。

浅間神社 (せんげんじんじや) D-3
江戸時代から富士山を祀る神社として厚い信仰を集め、多くの人に親しまれています。正式名称は富士浅間神社。
現在の本殿は天保13年(1842)に再建されたもので、市指定文化財となっています。毎年7月の第一土曜日には宵祭り・祭礼が行われます。

むじなの森跡 (むじなのもりあと) D-1
昔、むじなが住んでいたといわれる新田町の旧家の広い敷地には、多くの大木があり、村人から「むじなの森」と呼ばれていました。その森跡に今もムジナがいた大木が残されています。

毛長神社 (けいちんじんじや) D-1
創建は不詳ですが、ご神体に女性の髪の名を祀る珍しい神社で、享和10年(1725)9月25日に社殿修築の記録があります。
伝承によれば、村の長者の屋敷跡といわれ、髪を祀るその由来(別説は薬師尊の妹)といわれています。鳥居は水戸川家の江戸屋敷から移設したものです。

ウォーキングコース
コース1周 約7km 約3時間
谷塚
毛長
むじなの森跡
新田
駅
社
公
園

葛西用水エリア

東武スカイツリーライン 草加駅東口より 東武バス草加09乗車7分 稲荷三丁目下車

ウオーキングコース
コース1周 約2km 約1時間
稲荷三丁目
葛西用水
稲荷三丁目
社
公
園

ウォーキングコース
コース1周 約2km 約1時間
稲荷三丁目
葛西用水
稲荷三丁目
社
公
園

全域図 (交通案内)

Translation

QR Translator

QR Translator

Front Back

草加まち歩きマップ

国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」

「せんべい・皮革・ゆかたのまち」

ようこそ 草加へ

元禄2年(1689)3月27日、46歳の松尾芭蕉は、門人の河合旅長を伴い、江戸深川を旅立ちました。後に日本を表す記号「おくのほそ道」として結実するこの旅は、日光、白河の間から松島、平泉、象洞、安曇野、金沢、敦賀と、東北・北陸の名所旧跡を巡り、美濃国大垣に至る600里(2400km)、150日間の壮大なものでした。「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上こそ生涯をかくべ馬の口とらえて老をむかふる物は、日々旅して、旅を極とす。」
深川を出た芭蕉は千住まで舟で行き、そこで見送りの人々に別れを告げて歩き始めます。「若生で帰らばと定なき旅の末を、其日漸早加と云指にたり着にけり」
こうして芭蕉は、肩にかける荷物の重さに苦しみながら2里8丁(8.8km)歩き、日光道中第2の宿駅だった草加にたどり着きました。「おくのほそ道」の旅は、このあと、草加から東北へと拡がっていくことになるのです。

制作発行：草加市
協力：草加市観光協会
草加宿内人の会
〒340-8550
埼玉県草加市高砂1-1-1
TEL 048-922-0151(代表)
令和6年11月

再生紙を使用しています。
リサイクルマーク
このマークは、印刷物のリサイクルマークです。